

1. この会社が目指す姿が理解できるか

三井住友建設は2030年の将来像として『新しい価値で「ひと」と「まち」を支えてつなぐグローバル建設企業』を掲げ、積極的に国内での主事業のさらなる成長・新規事業の拡大、DX・SXの取り組み、グローバル事業の拡大を目指している。まず、国内の事業においては鉄鋼分野を得意とするSMCSEとPC橋（あらかじめ応力を加えたコンクリート材(プレスコンクリート)を使用した橋梁) 専門家であるDPSと連携することで「国内PC橋シェア20%の達成」「国内橋梁事業の受注規模700億円の達成」という2つの目標を掲げている。地震の多い日本では耐久性の高いPC橋の需要は増えていくと考えられるため、PC橋のシェアの拡大を目指すことは得策だと考えられる。海外での事業においては、急速に人口が増加し都市への集中化が問題となっているアジア・アフリカの新興国におけるインフラ整備市場の拡大やODAなどの大型土木事業を見込んでいる。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束時間が見えない状況であることから、民間設備投資を中心に不確定要素も多く、状況を見極めて国内事業と海外事業のバランスを取っていくことが必要となるだろう。DXの取り組みにおいては、デジタルを活用した次世代建設生産システム構築に向けたアプローチを「Vision 2030」とし、設計・施行計画、建設現場のそれぞれでデジタル化を進めている。SXの取り組みにおいては、SDGsを達成するために、環境問題に対する目標を設定している。具体的には2030年までに施工段階におけるCO₂の排出を50%削減することと建設廃棄物のリサイクル率を100%にすることだ。他にも2030年～2050年までに地球の温度が1.5～2℃上昇する場合と4℃上昇する場合の二つのシナリオを立てている。前者の場合、2050年時点で世界はカーボンニュートラルを達成しており、建築はZEB化され、中高層建築の木造化が普及し、発注者はCO₂配慮公共調達を行っている想定している。後者の場合、2050年時点では建築のZEB化や革新的な開発が遅れ、自然災害が増加すると考えている。そのため、防災インフラの整備や自然災害の復興需要が増加すると想定している。このように三井住友建設の目指す姿は具体的に理解できるといえる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

三井住友建設は生産性の向上のために積極的にDXを推進している。具体的にはコンピューター上の3次元の建物のデジタルモデルにコストや仕上げ、管理情報などの属性データを追加したデータベースであるBIMや製造業で導入されている生産管理システムであるCIMを活用している。BIMやCIMを活用することで危険な作業を安全かつスピーディーに行えるようになった。他にもリアルタイム鉄筋出来形自動計測システム「ラクカメラ」、

遠隔操作システム「遠検」、トンネル工事における「自動 de 覆工」などの開発技術を現場に適用している。各事業部門においても三井住友建設の競争優位性を見ることが出来る。土木事業部門においてはPC床版取替、トンネル補修などといった高速道路の大規模更新事業のシェアを拡大した。他にも通常のクレーンによる施工ができない特殊な条件下でも、効率的な施工を可能にする遠隔操作型の床版架設機械を開発し競争優位性を強化している。その結果、2020年度の受注高は国内で1092億円となった。建築事業部門においては高品質・短工期を実現する独自の躯体工法(SQRIM工法)を活かし、超高層住宅の施工で高い競争力と豊富な実績を誇っている。海外事業においてはジャカルタ都市高速鉄道、インドネシアのCP203工区、タイの地元優良企業のオフィスビルを受注し、現地法人を含む2020年度の連結海外受注高は558億円となった。このように三井住友建設は様々な角度から競争優位性を強化していることがわかる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

三井住友建設はSDGs、社会的責任に関するガイドライン(ISO26000)、SASBスタンダードといった国際的な行動規範や枠組み、サステナビリティ評価機関の評価項目を踏まえてESG経営を推進しているため、競争優位性に持続性はあるといえる。例えば再生可能エネルギー事業では太陽光発電やバイオマス発電などの発電事業、水力太陽光発電用フロートシステム販売事業を推進している。他にも、快適で働きやすい職場環境の実現を目指し、具体的には従業員の健康診断結果を活用して、外部コンサルタント会社に社員の健康状態および生活習慣病リスクに関する分析を委託し、社員の健康状態を可視化した。DX化においては、スマートデバイスを利用して、建築現場での配筋検査業務を省力化するSmile生産システムの実現に向けた技術研究開発が行われており、さらなるデジタル技術の活用が見込まれる。橋梁事業においてはプレキャスト生産拠点を5つ有し、配送コストの最小化や工場稼働の平準化を図っている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

三井住友建設では、社内で「スピード」、「チャレンジ」、「プロアクティブ」という3つの価値観を常に意識し、能動的な行動をとるよう促されていたり、仕事と育児・介護の両立や在宅勤務制度の導入といった各種制度を充実させたりしている。そのため、働きやすい環境でのびのびと自身の人的資本の価値を向上できると考えられる。他にもボランティア活動を通じて実務能力やリーダーシップ力も向上させることができるだろう。また、グローバル人材を育成するために、日本人社員を対象とした語学研修や国籍混合のグローバルトレーニングを行っており、海外の人とお互いの文化や考え方を共有しコミュニケーションをとる能力も養うことができると考えられる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

資料が長く要点が掴めにくいから事業戦略と価値創造ストーリーの中で重複しているキーワードや内容をまとめて少々簡略化すべきだと思った。さらに、最初にSDGsの17の目標のうちジェンダー平等や気候変動対策や働きがいといった何項目かに沿って問題提起をすれば、何を解決、改善しようとしているかが明確になると思った。具体的な内容に関する改善点としては、女性管理職比率の目標を2.5%以上としているのは低いと感じたから5%以上にすべきだと思った。人手不足の建設業では、女性社員を積極的に取り込んでいくことが会社のイメージアップにつながり、人手不足解消のカギになると私は考える。